

構築会兵庫支部 平成21年度見学会・総会の概要

平成21年度の見学会は8月に開催し、環境と景観をテーマに会員34名が淡路島内の3カ所を巡りました。

最初に訪れたのは、淡路島北部(淡路市野島)の「兵庫県立淡路景観園芸学校」です。日本で唯一の園芸分野の専門教育研究機関で、開校10周年を迎えたこの4月に大学院が設置されました。豊かな自然に囲まれた13haのキャンパスには、フィールドワークの場である庭園を取り囲むように教育施設が配置されており、人と自然の共生の思想が具現化された景観の美しさに感銘を受けました。学校OBの方による愉快的口調でのご案内のもと、和やかな雰囲気の中で見学させていただきました。



続いて淡路島中部(淡路市富島)の「富島震災復興土地区画整理事業地区」を車内から見学しました。阪神・淡路大震災で家屋の80%が全半壊し、2カ月後には骨格的な都市計画を決定、住民意向を反映するための段階的な変更を経て、ようやく完了の時期を迎えた地区です。漁師町特有の網道に沿った細街路、随所にある祠や神社と一体となった公園などを見て、震災からのふるさとの復興に込められた関係者の様々な思いを感じ取ることができました。

最後の見学地は、淡路島南部(南あわじ市阿那賀)の「南あわじウインドファーム」です。北海道根室市の発電事業者「クリーンエネルギーファクトリー」が建設・運営する年間9,200万kwの電力を生み出す国内最大級の風力発電施設で、海拔120m、南北約4kmの丘陵地に高さ85mの風車15基が海に向かって立ち並んでいます。山の斜面に敷かれた進入路は



建設時の機材搬入路で、バス1台がギリギリ通れるだけの幅しかなく、スリルを味わいながら風車の足元までたどり着きました。塔は直径4.3m、ドイツ製の回転翼1枚の長さは44m、FRP製で重さは8.5トン、6秒に1回転しています。塔に近づき機械的な風切音を聞いていると、まるで巨大なロボットを見上げているようで、近未来的な不思議な感覚になりました。

見学会の後、橋本構築会会長(兵庫支部役員)と社会基盤工学部門の奈良先生をお迎えし、41名が参加してJR神戸駅近くの和食料理店で懇親会を開催しました。見学先からの到着が若干遅れたため、バス車内で総会を開催し、店では懇親会のみを開催するというイレギュラーな形となりましたが、貸切ということもあり気兼ねなく歓談できて、親睦が大いに図られたのではないかと思います。